

5/10 生活団活動(菊の挿し芽)



今年も秋の菊まつりへ向けて一人一鉢の菊を育てます。菊は種から育てるのではありません。花壇に生えている菊の茎の先端を切って、土に挿し、発根させて増やしていきます。ギリギリの水加減で発根を促していきます。これが難しいのです。



1, 6年・2, 5年・3, 4年のペア同士で行いました。



ペアの上級生が相談に乗ります

「今年はどんな色の菊が咲くかな？こっちの方が元気そうだよ！」



日陰の風通しの良い場所で約2週間、発根を待ちます

きくの子の由来

初代師範学校長であった木下一雄先生が「立派な葉を持つ草には、立派な花が咲く。大衆に学ぶ者たちを立派な葉を持つ草のように育てよう。そして、その草が立派な花を咲かせるように教育しよう」と考えられて、校章と校旗を菊の花に決めました。以来、菊の園に学ぶ児童を「きくの子」と称し、実際に児童自らの手で菊を育てる活動を行ってきました。

毎年秋に行われる「きくまつり」では、4月から児童一人ひとりが大切に育ててきた菊が学校中に飾られ、開校のお祝いに彩りを添えます。





学年縦割りの「生活団」
で、上級生と下級生がペアを
組んで活動しました。



緑の下の力持ち。
委員会の6年生が
土やポットの準備
をしました。

ここに、一つずつうえていこう。
うえたら、名札をつけようね。



元気のいい芽を探そう！
切ったら、すぐに水につけるんだよ。